

公の施設目標管理シート（直営）

センターの運營業務を受託している「新潟市市民活動支援センター運営協議会」の事務局スタッフ5名がローター

問合せ先 025-226-1102

年度	平成25年度		
施設名	新潟市市民活動支援センター	所管部・課	市民生活部市民協働課
施設の設置目的	市民が、営利を目的とせず、不特定多数のもの利益の増進に寄与するために行う活動（市民公益活動）を支援するため、市民活動支援センターを設置する。		

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	H25.4.26
歳入	413	正職員		修正日	
歳出	27,660	非常勤		評価日	

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H22実績	H23実績	H24実績	H25目標					H25結果
1	市民	活動に関する相談や活動の場の提供を行う市民活動支援センターを通じてNPO活動を支援し、市民との協働によるまちづくりを進めます。	センター利用登録団体数(団体)	457	523	270	335	326	・H24年度末で登録団体の再点検を実施した(再点検前は579団体)。 ・新総合計画主要事業目標 H26年度 400団体 ・H24:22,874人/359日 ・H25目標:年間24,053人/359日 ・市民活動支援センターの中間支援機能等の充実 ・サテライト機能の検討(社協、公民館等との連携強化及びソフト事業のモデル実施)	目標にはやや届かなかったものの、前年比20%増と順調に登録団体数を伸ばしている。	C:未達成	
2	市民		センター利用者数(人/日)	46.1	58.4	63.7	67.0	50.7		18,214(人/年)。目標には届かなかったものの、年間18,000人以上の利用があり、高水準で推移している。	C:未達成	
3	市民		センターホームページアクセス数(件/年)	17,225	17,637	17,926	18,500	11,665		ホームページの見やすさ、魅力の不足と思われる。H26年度に見直しを予定している。	C:未達成	
4	市民		センターホームページユーザー登録数(団体)	30	47	54	60	64		ユーザー数=センター登録団体数を目指していくが、ユーザー登録のメリットも検証していく。	B:達成	
5	市民		主催事業等参加者数(人)	1,977	2,447	2,423	2,500	2,515		個別相談、古町どんどん等イベント、スキルアップ講座	イベントでの集客数が伸びており、様々な工夫をこらし、集客増につなげている。	A:達成(優)
6	市民		他団体協働事業コーディネート件数(件)	6	8	57	58	71		古町どんどん、ロゴタイプ作成、社協連携、センター利用団体(会員)との協働事業、話し合い文化での協働事業、他	イベントへの参加団体と協働で事業実施しており、参加団体の増加により、団体同士のつながりが広がっている。	A:達成(優)
7	財務		施設稼働率(%)	44.5	55.2	59.1	65.0	44.4		(利用コマ数)/(利用可能総コマ数=28コマ×359日)	年間利用者数の減少による。	C:未達成
8	財務		利用者一人当たりコスト(千円)	1.70	1.33	1.21	1.19	1.51		(総事業費)/(利用者数)	年間利用者数の減少による。	C:未達成
9	業務		利用者懇談会開催数(回)	4	17	17	18	11		利用者団体懇談会、協働事業実行委員会、他	会員の集いと利用者団体懇談会イベントを実施したが、目標には届かなかった。	C:未達成
10	人材		スタッフ能力向上のための研修会参加数・勉強会開催数(回)	15	15	41	52	52		市とスタッフの勉強会1回、スタッフ会議46回、ラウンドテーブル研修5回		B:達成

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価(評価を踏まえた課題分析・方向性など)
豊かな地域社会を実現するには、市民の創意と工夫を活かすことが求められており、市民活動支援センターを通じて市民団体が行う様々な公益活動の支援を行います。	センター開設依頼、順調に利用者数を伸ばしてきたが、平成25年度は、初めて対前年比で利用者数の減少という結果となった。しかしながら、年間18,000人以上の利用者数という高い水準を維持していることは、一定の評価ができると考える。また、多くの市民が参画できる運営を目指し、利用団体の意見を運営に反映する仕組みづくり、利用者主体の事業の企画・実施など、利用者とともに運営する体制の構築に力を入れており、「主催事業等参加者数」は、増加傾向にあるなど、成果が表れつつある。平成26年度は、センター開設10年目を迎え、記念イベントやホームページのリニューアルなどを通じて、利用者数の増加、センターの活性化を図っていきたい。